

**内容別・観点別の分析** (様式2)

	内容別結果分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な形を描くデッサンでは、光と影の関係性をとらえ、立体的な絵を描くことができた。</li> <li>色彩の学習では、色についての知識をしっかりと学ぶことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆の1本1本の線が雑になつてしまった生徒が多いように感じる。また、力の加減ができていない生徒が多く、消しゴムで消しても跡が残ってしまい、画用紙が汚くなってしまうということがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>光と影の関係をとらえながら描くことができる生徒は多いが、鉛筆の使い方がうまくできていない生徒が多いため、鉛筆の使い方の基本を改めて指導する必要がある。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>レタリングの学習では、明朝体、ゴシック体の特徴を理解し、形を正確に描くことができた。また、色相の組み合わせについても学習し、しっかりと理解することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポスターカラーを用いて彩色することが苦手な生徒が多いように感じる。</li> <li>発想についても、しっかりとアイデアを練っている生徒と、なんとなくやっている生徒に分れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆や定規を使つての作業はほとんど生徒ができていますが、筆を使った作業や水分量の調節が苦手な生徒が多いため、ポスターカラーの使い方の基本を改めて指導し、徐々にレベルアップさせていく必要がある。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵皿の下絵を作成することが授業の中心であった。ペン画の基礎を学び、多くの生徒が点や線を使いながら、根気よく作業に取り組んでいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの生徒が根気よく作業をしている一方で、なげやりな態度をとる生徒や少しも作業をやろうとしない生徒もいた。</li> <li>発想は豊かでそれぞれの生徒がこだわりを持って超現実の世界をつくりだそうとしていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペン画の細かい作業を根気よく、こだわりをもって取り組んでいる。しかし、一部の生徒はなげやりな態度をとっているため、個々のレベルに合わせた対応が必要である。</li> </ul>

**導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充学習等の計画** (様式3)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆の使い方(線の描き方、力の加減)がうまくできていない生徒が多いため、鉛筆の使い方の基本を改めて指導する必要がある。</li> <li>生徒が意欲的に取り組む授業になるように心掛ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デッサンの授業をするときや鉛筆を使って作品をつくる際に画用紙などを使って、力の人れ具合や手の動かし方を段階をおって指導する。</li> <li>達成感をもたせるため、良い点を認め、褒める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本をしっかりとマスターできるように、基礎的な作業に十分な時間をかける。そのためにも余裕をもった計画をたてるよう心掛ける。</li> <li>発想を考える時間と技術を学ぶ時間とのバランスをとる。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポスターカラーの水分量の調節やパレットのふちで筆を整えてから描くことなど、改めて指導する必要がある。</li> <li>注意すべき点や作業のポイントが生徒にしっかりと伝わっていないことがあったため、改善する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を聞く時と作業をする時の区別をしっかりとつけさせる。また、注意点やポイントを説明する時は板書等をわかりやすくし、生徒に意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本をしっかりとマスターできるように、基礎的な作業に十分な時間をかける。そのためにも余裕をもった計画をたてるよう心掛ける。</li> <li>発想を考える時間と技術を学ぶ時間とのバランスをとる。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中して取り組む生徒となげやりな態度をとる生徒の差が大きかったため、もっと机間巡視を徹底し、個別の対応をとる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>机間巡視を徹底し、なげやりな態度をとる生徒を励まし、言葉がけをし続ける。また、集中して取り組んでいる生徒にも声をかけ、褒める。</li> <li>簡単なことから段階をおって指導するよう心掛ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発想面、技術面とも段階的な発展・継続的な実施を行い発達を促す。</li> <li>授業時数の少ない中で、生徒に時間配分や作業スピードを意識させ、授業に取り組ませる。</li> </ul>